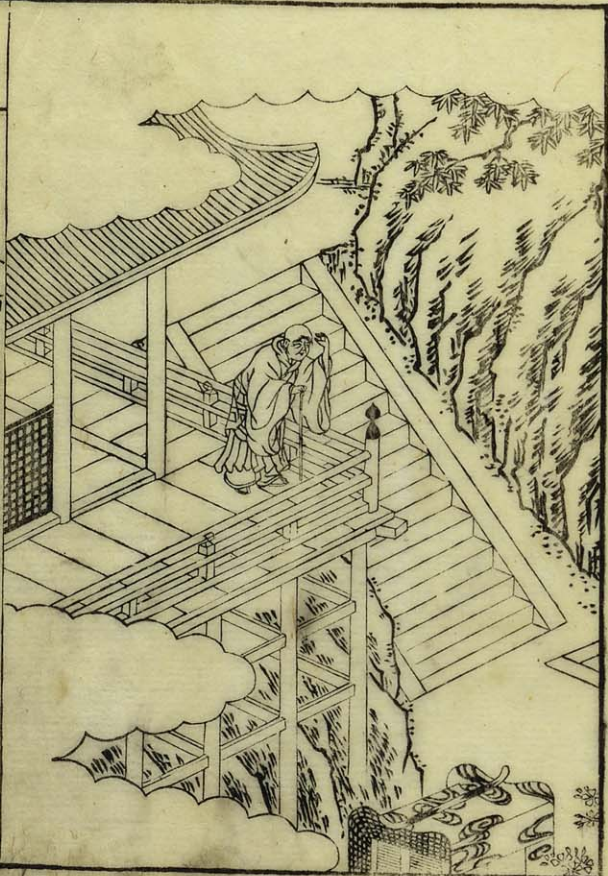
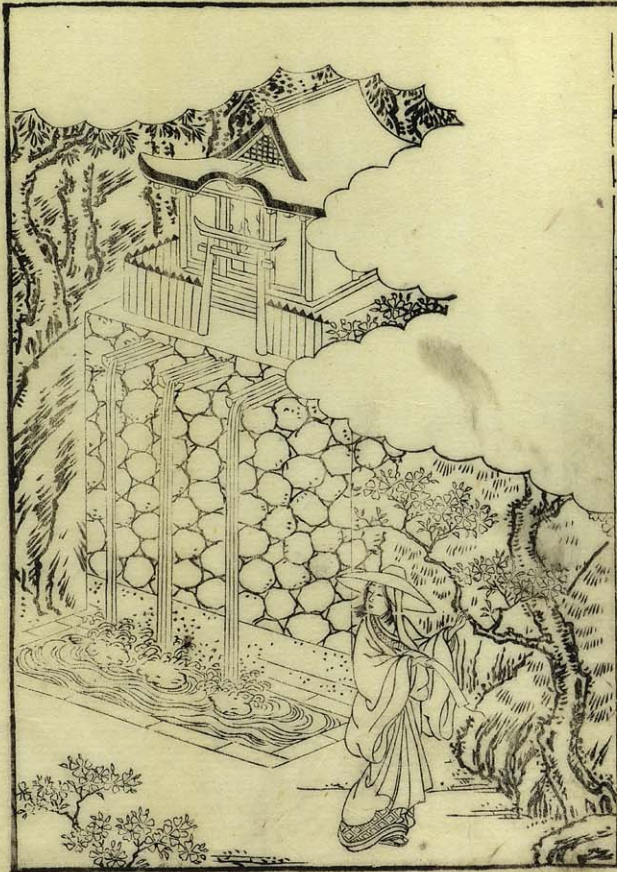


2282

當日奇觀

四

とてせしが野も中も元はなれも地はひびきなりけり世の春よりこゝろもあまきとて
あまの世よりあまきとても詠せんあのこととてくも居をせり地まのわらになら
やういなきい誠や人ああるぞりけり景色とばよまらりて遷居の報
とらり居たはまらふ梅の何れも政のわきがたる経冊ととらりまらるるの候
乃ばよまらりけたりとて聖一因とてまらりいあつて世の悪縁はくけりまら
の大道をまらりけりあまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
わらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
えの居は通とてまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
行きのまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり



へんはあまのきさの月をのきまんとしたまふぬけの辰を松むん
 かまむけなままあじらまはのらなるをと媚ありと蓮系に致不
 是時の月山理やあまのきさで詠やらなひかまもさるふと行む
 すまうなまのあまのきさと松むんかまも佛のまはららひなるあまの
 なむたるとも淨業障の文誦どまら座より引落る又も座後のもまら
 のりたたまども沙彌愛欲のまららなまら月のかれ一會起勸の波風
 に棟の段ちと護摩の煙まらまらなるかまもなまらまらまらまらまら
 又まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 いたまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 既る際とも用ひなるが弟子あはれもせんまらまらまらまらまらまら
 事柄ともまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

たけいふと醫師とよんさらやゆつらら何んともあぐらとれた
まふ聖枕とよば流るはわらわらとわらわら相おれ
まの道なりいふはたてとまふまふん隣界神のいふは社修し
さらはもゆらとあふとまふ毒とまふ毒と方便下宿とていふ
かえ其目の花目と東とまふに身おはらわらて開白と女の車はくその女
とて斬命好小まふとてはらまふとあわら相とあはははえが貴きあの
まふた東の世のまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと
まふと風のまの燈とまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと
縁にも侍まふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと
まふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと
まわとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと
まわとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふとまふと

まふ受巻善提樹

留遇人間第一春

厚味と謝 著顔二はとやて去うと云はれぬのあらふかゝる鬼
 おまゝと知くまを頼みあそびたうと云ふのまゝり芳しとわん里と云
 せぬれ力様でそ身頼らたむらと謝したをゆとよよねえ左角
 罪を降らた如事とがすは先文とと抑えよ子持さ家その海遊の源と
 名もろもどかきけいん人主人のななきまの罪とすんかといよま妻
 とんてんか 五月朔の晴間は思とてとるつらんよの舞星のあむことと
 あんげんを花と伊のう下司は此うと訴ふる縁はまをててま妻
 くねと問ふ先文云ま酒家とと野酒の酔くまのけくま夜に
 二更うへ桂木の猿もかき酒の御まもろえ居るこの進まことよ
 かしは有名人のさすあわりの酒飲をなかりとるつらん先文と問はれに
 ぼろこの夜と曾とてと云はれ先文修身家命はくまはぼろのあて

巻之四

價とて名と馬廻を曾とてい 譲らぬは又云著顔といまたり
 せ永用の中あわることまとも曾んこよよひあまを待たんはな
 らまのいこわんかえり此二をててせまの依りたる共計をやとよ
 に殺さるるまゆりま面共計のわんこととてとて追捕と共計
 て頃日法とと捕へんこちえはとてささるは後をさす上んわとて
 陸はとらや共計と共計は同と証たるう罪を依を被代かひて
 云はれぬとて身たる丸難いといや身あまを後をさす夜に上よ
 て脚あまの海はもあまあひ人の身ゆまをまん尻もたまか
 とあてちふかゝるかゝりなりなりはりなり子埋たる難と云るわな
 ぼろやゆやとて候かるといよまゆく海をの看かるとけりて罪重
 考て判つ云はれ首惡かること論かるといよ人と教ふの好とわ

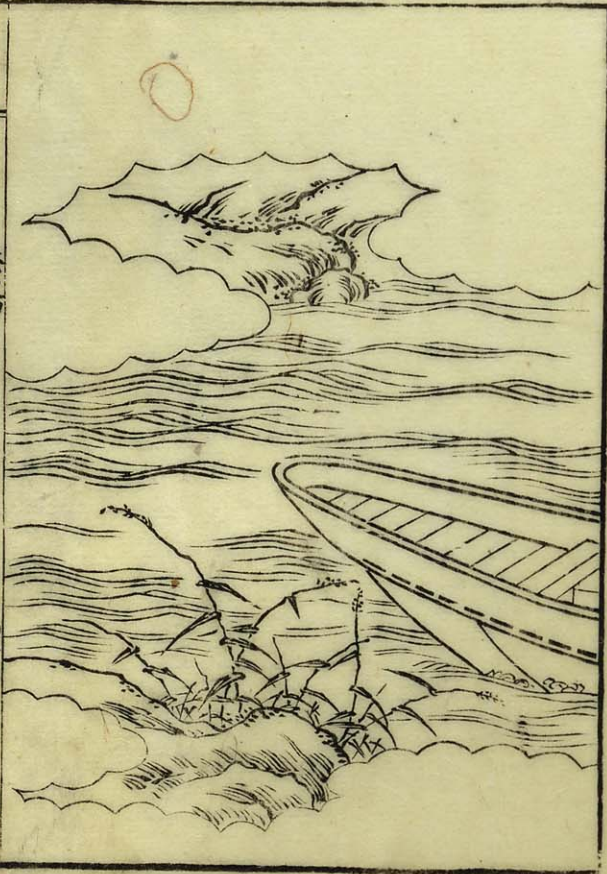
藪萱庵鍼後の效

ひより後夜の如誠に起死回生の功あり脈絡の會場候のと云ふ事あり
俞光に中する速效候の如く傳記の載るやと云ふ女ありは李洞雲
麻安類の其聖と云ふ大承時頼の時、藪萱庵と云ふもの異人
達を其物と傳下しえ往く不測の功ありく其事候く若く云
隣家の母婦數日産不能分接せと藪萱云、肥と云ふ
も母の腸を執りなす候時と候、母ももに胎す、胎すんて
も、年と云ふ物、虎口は鍼と云ふと候、生る、母の虎口
へ、鍼痕の如く、二時の權六百四十九穴の外に、つもの常夜と云
論、つもの其頃時頼の愛妻、久く、中風の如く、久く、諸醫、よと候、も
效あり、藪萱と云ふ、視る、む、は、藪萱、後、云、是、邪、疾、の、湯、米、丸、

卷之四

を、い、て、鍼、と、出、て、其、足、踝、上、三、寸、と、刺、と、轉、わ、り、婦、人、脈、を、
す、と、と、い、ん、云、れ、力、常、と、と、い、は、ん、は、疾、起、る、日、り、人、の、怪、來、
たる男事とて、城外、又、山林の、間、へ、行、今、日、も、伊、兵、衛、
は、と、ら、復、男、路、の、や、ら、の、棘、刺、と、思、と、と、云、動、と、わ、ら、ん、と、
云、ま、ま、う、序、を、と、と、時、頼、と、云、藪、萱、と、云、其、物、と、云、ま、ま、と、
刺、と、り、人、の、筋、力、り、奇、性、に、似、と、と、と、百、針、の、疾、と、の、ら、し、之、處、の、鬼
官、鬼、信、鬼、界、と、と、是、ら、と、其、の、醫、と、ら、れ、物、と、藪、生、氣、を、復、
と、春、の、と、と、百、針、刺、下、痛、醫、の、わ、ま、り、た、ら、か、他、又、存、す、
と、人、術、也、と、と、と、信、業、と、云、者、甚、多、く、中、は、も、金、澤、原、思
ふ、も、日、夜、を、潜、を、其、術、の、奥、妙、と、極、と、と、云、水、火、の、相、と
は、程、候、と、と、と、ま、あ、と、と、た、は、藪、萱、庵、の、後、の、効、と、と、云、ん、と、

へに應む人余の至まりる二滅の下にあり人を兼せり百多の余と
 新運す人余の呼吸の流多きまらに陰陽の盈虚よりえ指丈天工
 代あ妙あり油志すむとそをも用ひまらわく以名物と試と業と膏の
 今なるあり鎮夜の妙處傳ふべしに替くも消さく山よりまきかれと
 静に一世と消て其後妙妙を傳ふべし石を以て鎮を以て金鐵を用ひ
 あらひ海は碇の字石まきまきま石の雜あり後世佳石あり也公藏
 と用ひ後石藏ありとそは家異人よ達て物と多る時下野國二荒
 山佳石ありとそは山あり本は後いもまきまき原思はて後まき
 二荒山入り直夜ありとそは松風雨雲は伴ひ俗慮妄念の穢
 行と三はんは夏庵又ややくは物とそは教也原思はてことと出む
 まきも新は一日原思畧夜とそは人よ悩む夏庵の石とそはつて



山園を介してとて、自ら一鍼を師傳の所より下して、鍼をのたまひ、
留めらるるや、ゆるゆると痛みおぼへ、折長師の所よりとて、是と若
て、術を求むるを、爲すは、云々、云々、とて、之ども、出鍼の法とて、
ざる、肘の益あり、その、わが、心と、眼前、の、わが、別、の、腕、の、
一、鍼、を、刺、す、こと、の、減、忽、躍、と、せ、疾、愈、り、原、思、慙、謝、して、
ア、ま、ま、す、く、公、術、を、精、練、と、せ、ま、ま、功、名、の、公、を、が、つ、わ、り、
世、に、施、す、誰、人、右、に、お、ろ、と、わ、ん、師、の、心、を、り、論、を、
得、と、ま、る、死、灰、と、あり、わ、ん、の、益、を、わ、ん、と、頻、に、
公、に、其、心、を、ま、ま、り、原、思、い、を、線、身、を、え、り、其、術、を、
時、頼、に、任、て、脈、と、賜、り、富、貴、を、得、後、に、師、を、
僕、後、を、所、兼、に、請、り、只、人、に、登、り、人、を、訪、り、
窓、下、に、書、を、
〇三 荒す、
〇四

少くも下りて心中の討策をいひわらむとて慙謝すりよふてびと
あり原思その得道の人なるまこととて下りて知りて後悔すきやもえ
んふく家かゝるそ其妻の起居とてや原思山に登りて日依り
寝いそりて前住を考へ只今の山中にいりて醫を求む君幸
ひの座よとて鍼を下したまひとてさへて其母を考へて二日を
経く疾愈るるといふにいよく師の得道の異人なるを信じて愧服
なりこそとて後も時々差座を山中にいらるるといふそのあり
遂よその終らむとて考へた術の精妙なる神異も傳るあらど
を代り無術の庸醫人とをまするま不孝の凡僧と女とをまわつて
阿彌よ送るにけり原思がごとし者多を得べかばその術の毒なる
推て知るなり